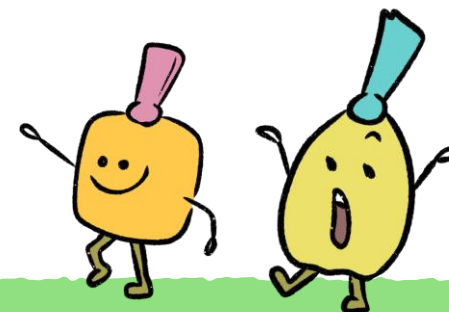
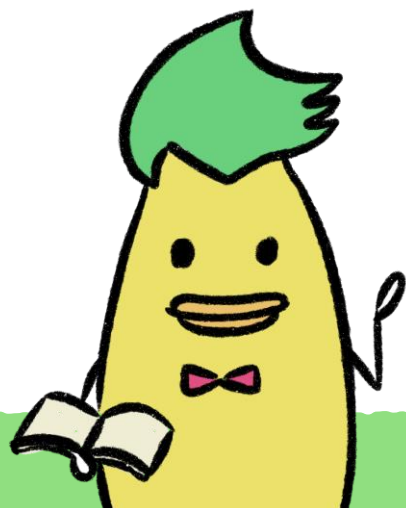




北海道の地図を広げて／

なるほどっ!! 北海道

留萌地方

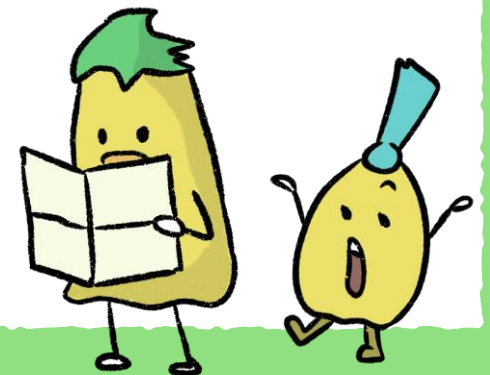
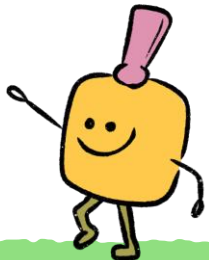




交通編

暮らしをつなぐ
留萌地方の交通網

なるほど!!北海道





留萌地方をつなぐ道

留萌地方のまちをつないでいる交通は道路です。札幌市から日本海沿いを北上し、増毛町から留萌市をつないでいるのが国道231号。留萌市から天塩町までつないでいるのが国道232号です。

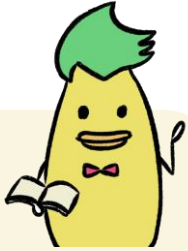
この国道231号から国道232号、さらに稚内市までの日本海沿いの道（道々106号）をふくめて「日本海オロロンライン」というよび方もあります。

留萌市と深川市の間は国道233号と深川留萌自動車道がつないでいます。深川留萌自動車道は深川市で道央自動車道につながり、自動車が速くさらに遠くまで移動できます。

国道239号は、きりたち 苫前町から霧立峠をこえて、名寄市やオホーツク海とをむすんでいます。



なるほど豆知識



[国道]
国道は、国がつくったりなおしたりする道路です。都市と都市、地域と地域をむすぶ、重要な道路です。産業や人々の生活でも大切な役割を果たしています。国道〇〇号というよびかたをします。

[自動車道]
自動車道とは、自動車専用の道路です。こんごつをさけ自動車がスムーズに走ることができるようにした道路です。



北海道の水産業をつなぐ道

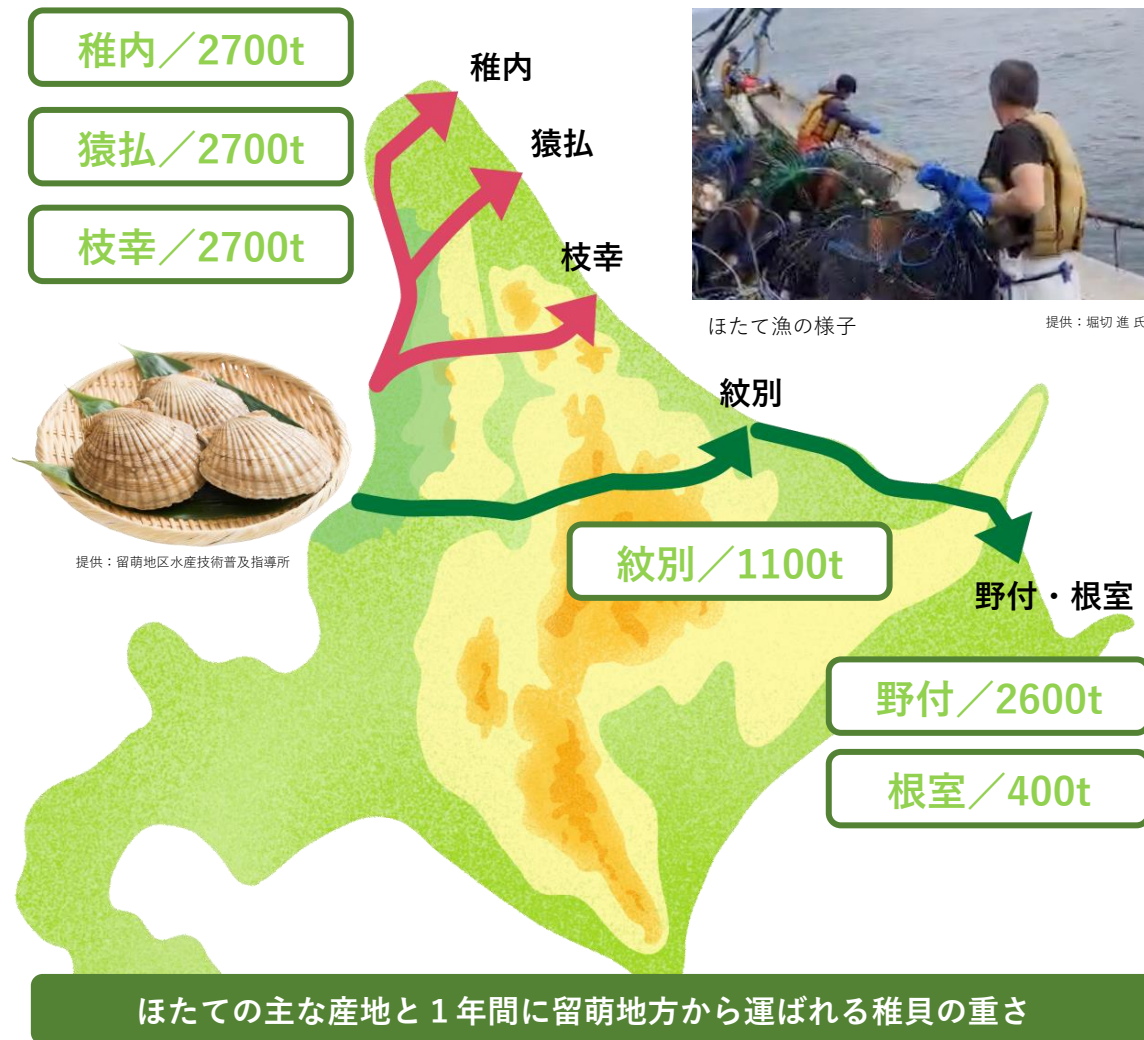
留萌地方の漁業では、ほたての稚貝ちがいの水あげ量が、最も多くなっています。

水あげされた稚貝は、すぐにトラックに積み、宗谷地方やオホーツク地方、根室地方に運ばれます。港に着いたらすばやく船に積んで、海に放流されます。

元気な稚貝をたくさん放流できれば、海で育てて大きくなったほたてがたくさん水あげできるようになります。

しかし、オホーツク地方や根室地方へトラックで運ぶと放流するのが次の日になり、弱くなった稚貝ちがいもありました。

この深川・留萌自動車道ができたことによって、トラックで運ぶ時間が短くなり、元気なままとどく稚貝ちがいが増えました。ほたての水あげ量も増やすことができました。道路は北海道の水産業をつなぎ、ささえているのです。





命を守るための道

留萌地方で最も大きな病院は留萌市立病院です。留萌地方では救急車で運ばれた人のほとんどが、留萌市立病院に運ばれます。これは、留萌市立病院が留萌地方で一番大きく、いろいろな病気やけがの治りょうができるからです。

救急車は国道232号や231号を通るので、「命をまもるための道」でもあるのです。

留萌市立病院から、さらに大きな病院の、旭川赤十字病院や旭川医科大学病院にかん者を運ぶこともあります。深川・留萌自動車道ができると、30分以上早く運べるようになりました。また、旭川の専門の医師がいる病院に通いやすくなりました。

深川・留萌自動車道もまた「命を守るための道」なのです。



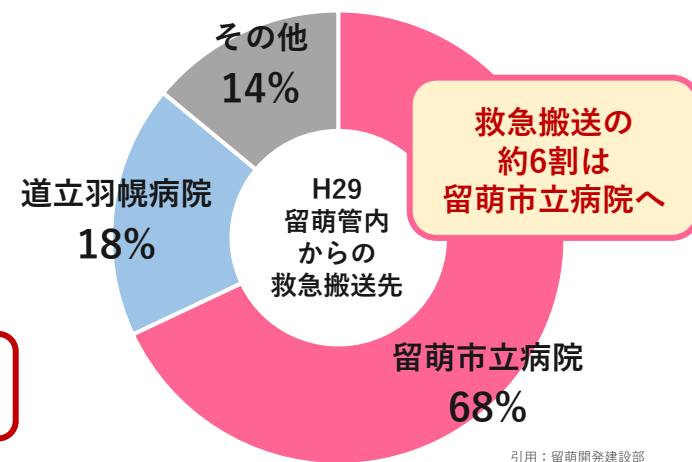
提供：留萌市立病院



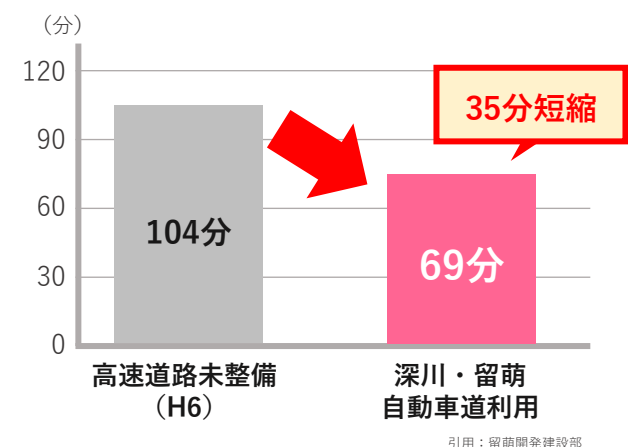
深川・留萌自動車道を通ると今までより30分以上早く運べる



提供：留萌開発建設部



留萌管内の緊急搬送先 (留萌開発建設部調べ)



留萌市立病院から旭川赤十字病院まで救急車がかん者を運ぶ時間の変化 (H6道路交通センサス、R3全国道路・街路交通情勢調査)



25年の願いがかなった 雄冬へ国道がつながる

国道231号は、留萌市から増毛町を通して札幌市をつなぐ道路です。

しかし、増毛町のおおべつかりから石狩市浜益区のはまますの間はけわしい山とがけが続き、長年にわたり道路を作ることができませんでした。

この区間にあるいわおいやおふゆ地区への交通手段は、増毛の港とを結ぶ定期船「おふゆ丸」だけでした。

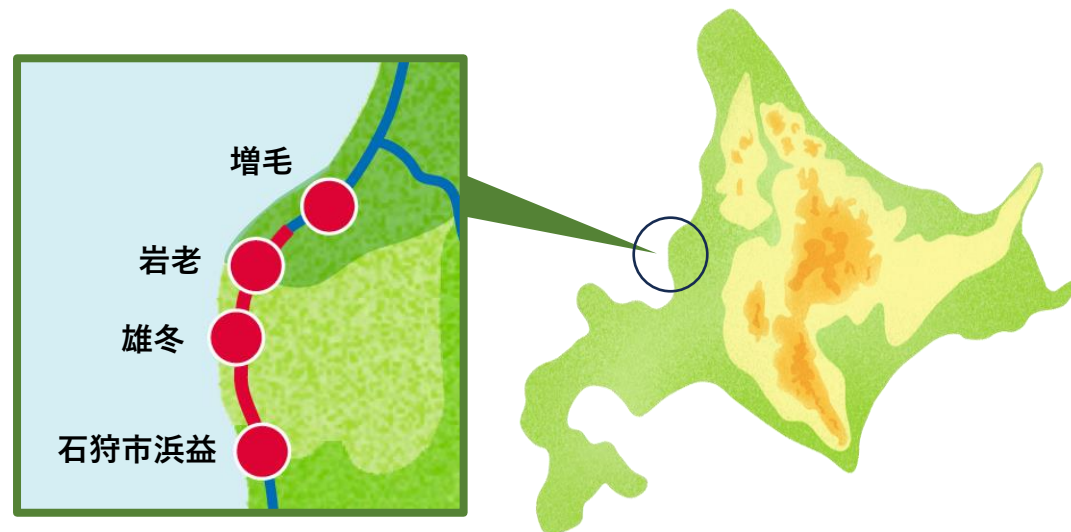


港とむすぶ「おふゆ丸」

提供：増毛町

冬の日本海は波が高く、船が欠航すると、生活に必要な品が届かないこともあり、地域の人々は大変な不便を感じていました。

1958年に工事が始まり、23年の歳月をかけて、浜益から雄冬を経て増毛までを結ぶ道路がようやく完成しました。しかし、その直後にがけくずれが発生し、安全を確保するために再び工事が必要となりました。



提供：留萌開発建設部



提供：留萌開発建設部

1983年に再工事が終わり、岩老や雄冬の人々はバスで増毛や留萌に行きやすくなり、買い物や通院が便利になり、安心して暮らせるようになりました。

また、札幌市からこの道路を通して多くの観光客が訪れるようになり、留萌地方の観光も活性化しました。



道の駅ってどんなところ？

国道232号沿い、留萌市から天塩町まで各町に「道の駅」があります。自動車で訪れた人や地元の人々に向けて、3つの役割を担っています。

オロロンライン沿いに位置することで、留萌地方ならではの景色や特産物を楽しみながら、他の地域よりも移動がしやすいのが特徴です。地元の特産品や観光の情報を知る場所としても優れていて、地域の魅力を発信する大切な役割を担っています。

なるほど 豆知識

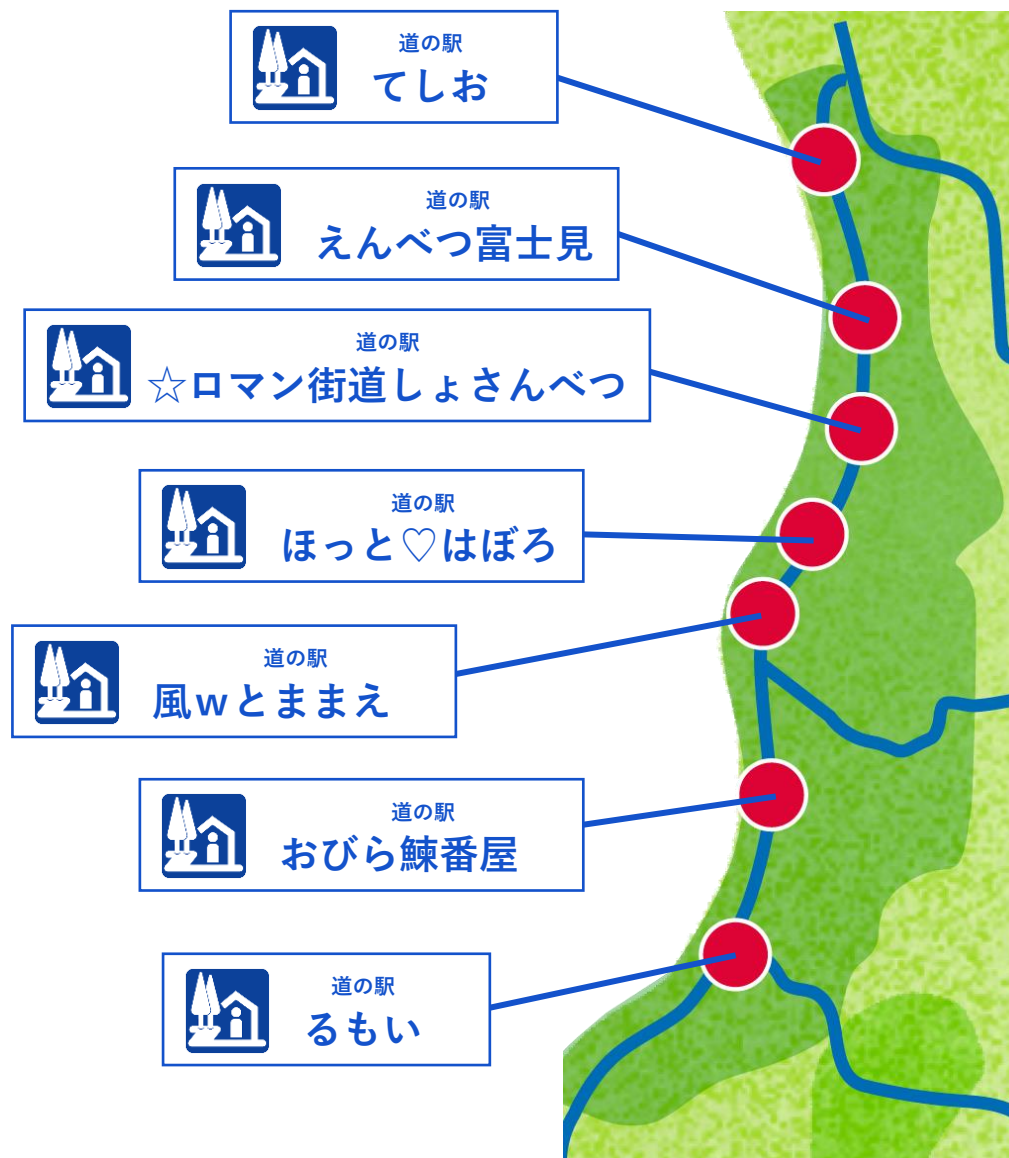
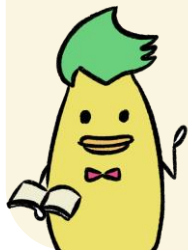
〔道の駅の大切な3つの役割〕

留萌市から天塩町までの各市町村にある「道の駅」は、地域の便利さを高め、まちを元気にするため、3つの役割をになっています。

1つ目は「休む」場所として、ドライバーが安全に休めるよう駐車場やトイレ、レストランが整備されています。

2つ目は「知る」場として、道路情報や観光案内を提供し、留萌地方の魅力を伝えています。

そして、3つ目は「楽しむ」場として、地元の人々も訪れてまちをにぎやかにする拠点になっています。オロロンラインでつながる「道の駅」は、地域の人や訪れた人も安心して楽しめる場所です。





フェリーでつながる島の暮らし

羽幌町には、天売島と焼尻島という2つの島があり、島と本土をつなぐために羽幌港からフェリーや高速船が運航しています。このフェリーは、島に住む人々の生活に欠かせないもので、食べ物や日用品といった生活に必要なものを運び、荷物や自動車も一緒に運ぶことができます。フェリーが物資を届けることで、島の人たちが安心して生活できるのです。

また、フェリーは島に暮らす人々や観光客が本土と行き来するための大切な交通手段であり、天売島や焼尻島の暮らしを支えています。

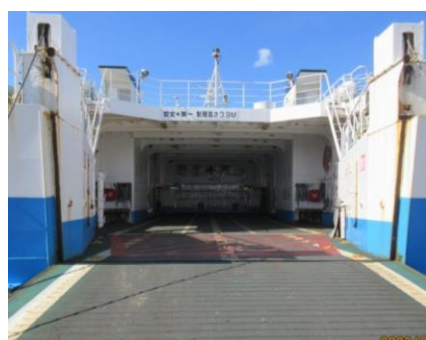
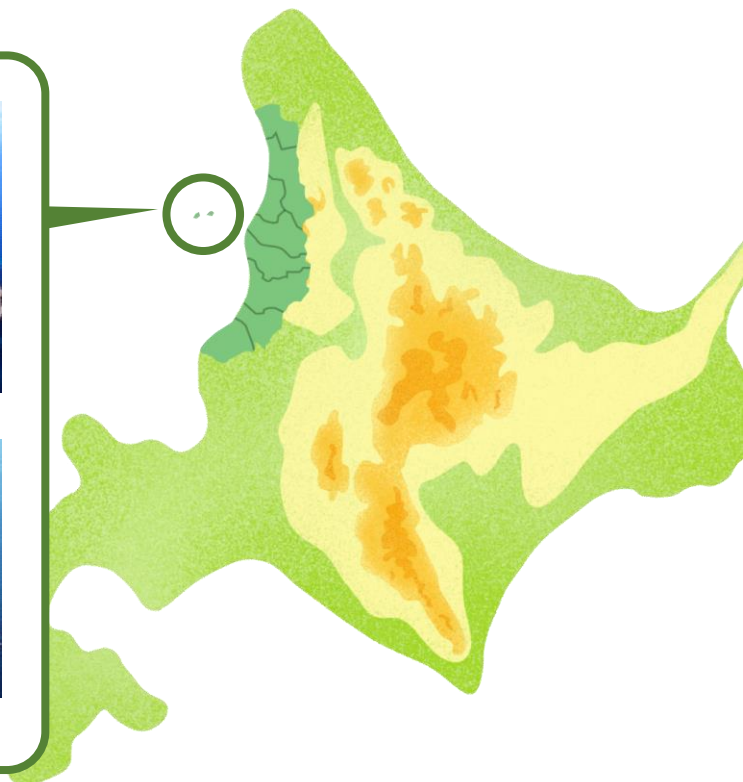


天売島



焼尻島

提供：羽幌沿海フェリー株式会社



提供：羽幌沿海フェリー株式会社

📖 多面的に見る

フェリーは人や荷物を運ぶだけでなく、島と本土をつなぐ大切な役割があります。いろいろな視点からその役割を見てみよう！

視点を
変えると

